

# 平成三年度現代宗教研究所事業報告

## 1、教化研究会議

(1)第二十四回中央教化研究会議

期 日 平成三年九月四日(水)・五日(木)

会 場 朗峰会館

宿 泊 朗峰会館

開催趣旨

①中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催されます。

②中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、管区・教区での教化活動の現状を話し合い、第二期お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討致します。

③各部会での討議を通して、教学の現代化、教育問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

④論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

全体会

(1)記念講演

「立正佼成会の教化活動」

齋藤安彦(立正佼成会教育部長)

(2)討論会 デイベート形式による討論会

テーマ①「仏教会」

②「法号」

(3)教化研修

「立正佼成会訪問研修」

部 会

第一教学部会

「死後はどうなるか、あなたはどうか生きるべきか」

第二寺檀部会

「無住寺院の活性化」

第三法器養成部会

「幼少期より青年期までの法器養成」

——出家、得度、沙弥校を踏まえて——

第四世代別教化部会

「女性から観た家庭信仰のあり方を問う」

第五教化伝道ネットワーク部会

「寺院のネットワーク化をどのように図るか」

——その実例と今後の課題——

第六社会問題部会

「日蓮宗医療問題研究会の活動について」

第七立正平和部会

「日蓮宗の信仰と平和運動」

開催方式

①部会制により会議を行う。

②出席者は一部会を選び、七月二十五日までに教務部宛に参加申し込みをする。参加者には、事務前に会議資料・参考資料などを送付する。

③出席者は、送付された参加部会のテーマ・討議

内容・参考資料などをもとに準備をし、開催当日は各部会毎に討議をする。

④会議において討議されたものは、教区の教研会議の資料や今後の教化のハンドブックとして役立てられるようにまとめる。

⑤教化研究の一助として、他教団を訪問し、その教化方法等を研修する。

日程

第一日目 九月四日(水)

受付 九時～九時三十分

開会式 九時三十分～十時

記念講演 十時～十二時

昼食 十二時～十三時

討論会 十三時～十四時三十分

部会別討議 十五時～十七時三十分

夕食 十八時

第二日目 九月五日(木)

朝食 七時三十分

部会別討議 八時三十分～十時

全体会議 十時十五分～十一時十五分

イ. 部会報告

ロ. 立正佼成会訪問研修ガイ

ダンス

閉会式 十一時十五分～十一時三十分

出版 十一時四十分(車中昼食)

教化研修 十三時～十五時

解散 十五時

参加者

宗務所長より推挙委嘱された教区教研運営委員、

或いは各部会に関心があり継続して取り組める管

内教師(管区二名)。

(2) 教区教化研究会議

十教区にて開催した。開催日時・テーマは次の通りである。

(イ) 第十三回九州教区教化研究会議

六月二十・二十一日 熊本市本妙寺屋寿杯(寿屋

研修センター)にて開催

テーマ「九州独自のお題目総弘通運動を推進しよ

う パートⅡ」

「お題目総弘通運動の推進と寺院経営の在り方」

(ロ) 第十五回中四国教区教化研究会議

六月二十七・二十八日 岡山市東急ホテルにて開

催

テーマ「信行組織の拡充と家族ぐるみの信行活動の展開」

(ハ) 第十五回北海道教区教化研究会議

八月二十三日 札幌市経王寺にて開催

テーマ「開教に何を学ぶか。日持上人を範にとつて」

「最近の話題 臨死を通して見た教化」

(ニ) 第九回千葉教区教化研究会議

十月二日 安房郡ニュー小湊ホテルにて開催

テーマ「臓器移植——宗教者として脳死・臓器移植を考える」

(ホ) 第二十五回近畿教区教化研究会議

十月四日 姫路市花北ホールにて開催

テーマ「未信徒教化と信行会の役員」

(h) 第八回北陸教区教化研究会議

十二月十九日 金沢市立像寺・法光寺にて開催

テーマ「お題目総弘通運動を展開する中で、今、

我々にできることについて語ろう」

(i) 第十五回中部教区教化研究会議

十二月二日 津島市津島勤労福祉会館にて開催

テーマ「家庭信行はいかに展開したらよいか」

「宗教家は今後の高齢化、医療問題等とい

かに関わるべきか」

「寺院後継者問題をいかに解決したらよ

いか」

(f) 第十七回京浜教区教化研究会議

平成四年一月三十一日 横浜市パシフィコ横浜に

て開催

テーマ「教化を戦略する！——現代から未来へ

……社会問題にどう対応・進展させてゆく

べきか」

(g) 第十六回山静教区教化研究会議

二月十七日 身延山短期大学にて開催

テーマ「新時代における教化活動を考える——信

行会の現状と活性化——」

(x) 第四回北関東教化研究会議

二月二十八日 つくば市筑波第一ホテルにて開催

テーマ「ホスピス・ケアを学ぶ」

(y) 第十回東北教区教化研究会議

三月四・五日 天童市天童ホテルにて開催

テーマ「祖師は現代に生きる吾々教師に何を求め

ているか」

## 2、研究・調査活動

(1) 新宗教研究・寺院調査・お題目総弘通研究の各プロ

ジェクトにおいて、それぞれ調査・研究を進めた。

(イ) 新宗教研究プロジェクト (片野博義・山口裕光・

植田観樹・西片元澄・勝呂昌信・澁澤光紀・貫名

英舜各研究員)

新宗教教団より、本年度は念法真教・円応教の

各教団の本部を訪れ、施設見学のものち本部の方よ

り各教団の概要と現状について話をうかがい、ま

とめ報告を行なった。また新宗教に関する資料を収集し、他の新宗教教団の基礎資料を作成した。

(ロ)寺院調査プロジェクト(小川英爾囑託・渡部公

容・岩本泰寛・小澤恵修・早坂鳳城各研究員)

前年度の予備調査をもとに、都市部・人口過密地域における都市部の寺院が抱えている墓地問題や檀信徒教化などの宗教事情と宗教活動に関する諸問題について調査研究を行なうために、KJ法により問題の所在を検討し、調査研究の方法などの準備を進めた。

(ハ)お題目総弘通運動研究プロジェクト(古河良皓・大島啓禎・伊藤立教・田島辨正・難波壽貴各研究員)

これまでに本宗における過去の宗門運動を総括し、その成果や課題を指摘した。次いで他宗の宗門運動として、真宗大谷派の同朋運動と本願寺派の門信徒会運動、及び本門仏立宗の信仰活動について調査研究した内容をまとめた。これらの研究成果を踏まえて、本宗の宗門運動のあり方につい

ての提言を試みるため、目的・運動内容・組織・その他の項目を立てて、その準備作業を進め、報告書をまとめる段階に入った。

(2)中央教研部会別研究

(イ)日蓮宗医療問題研究会を三回開催し、生命倫理、

脳死・臓器移植等と教化法につき研究を進めた。

(3)研究講座・教化学研究会を開催した。

(イ)平成三年三月二十六日、第十六回教化学研究会を大阪市雲雷寺にて開催した。

研究発表

「信行道場を通して教師養生を考える——平成二年第二期信行道場主任を勤めて」

井本学雄(兵庫県)

研究講座

パネルディスカッション

「現代における教化学の取り組むべき課題——僧侶の使命、仕事、役割、教育、在り方、実践について考える」

パネラー

石川教張(現宗研所長)

井本学雄（兵庫県）

藤崎一明（京都府）

司会 三好能生（兵庫県）

(ロ)五月十日、第十七回教化化学研究会を東京都港区はあといん乃木坂・健保会館にて開催した。

「気を通して見た心と身体はどうつながっている

か——気と経絡の科学的証明と身心相関の研究の

一端——」 本山 博（宗教心理学研究所所長）

(ハ)平成四年二月二十五日、第十八回教化化学研究会を福山市良縁閣にて開催した。

講演

「今、なぜ、新宗教を知る必要があるのか」

赤堀正明（現宗研主任）

「立正佼成会から日蓮宗を見る」

梅津礼司（立正佼成会中央学術研究所所員）

「わたしたちに必要なものは何か」

西嶋宏明（広島県）

(4)研究セミナー・研究懇話会・座談会の開催

(イ)平成三年三月十三日、現代宗教研究セミナーを宗

務院にて開催した。今回は、左記の講演をしていただいた。

「アラブ宗教事情——その原点を探る——」

湯田 豊（神奈川大学教授）

「墓をフィルターとして見た死後の家族」

井上治代（ルポライター）

(ロ)三月二十八日、第三回教団研究懇談会を宗務院にて開催し、テーマ「僧侶論」のもと立正大学仏教学部教授庵谷行亨師・現宗研嘱託三原正資師の両師に問題提起をしていただき、それにもとづいてディスカッションを行なった。

(5)研究発表

(イ)第四十四回日蓮宗教学研究発表大会にて研究発表を行なった。

「妙宗円通記考——優陀那和上の教化学」

三原正資（現宗研嘱託）

「唱題行の生理学的、心理学的研究の一考察」

影山教俊（現宗研研究員）

(6)研究例会

(イ)宗門における寺院・教師・宗制・布教教化・教育  
研修などに関する諸問題について、KJ法を用い  
てその所在を把握しまとめ、今後の研究の方向づ  
けの一助とした。

(ロ)研究員が各自のテーマに沿って、その研究成果を  
発表し、意見交換を行なって研究の一助とした。  
発表テーマ

①「日蓮正宗・創価学会の寺檀関係」 伊藤立教

②「宇宙論と法華経」 岩本泰寛

③「修行による人格向上・資質の変化について  
——生理心理学的知見を前提として——」

影山教俊

④「菩薩思想史から見た日蓮聖人——特に法華経  
を通して、仏教学の立場より——」 早坂鳳城

⑤「ニューサイエンスと日蓮聖人の教義」

澁澤光紀

⑥「僧俗考」 貫名英舜

⑦「パソコン通信の活用と実際」 田島辨正

### 3、出版・資料収集

(1)「現代宗教研究」第二十六号を編集し、全教師に配  
布した。

(2)教団史研究資料の一つとして、各種資料より「平成  
二年度日蓮宗年表」を作成し、配布した。

(3)教化資料として、各教化センター発行の教化・布教  
教材一覽、中央・教区教化研究会議開催要綱一覽と  
ジャンル別ブックカタログを掲載した「教化セン  
ター教材資料カタログ」を発行した。

(4)全国各地に設置されている教化センター間のネット  
ワーク作りを進める教化情報通信誌「ロータスネット」  
を今年度より創刊し、二回発行した。

(5)新宗教関係資料を収集し、保管した。

(6)各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。

(7)伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。

(8)今年度購入・寄贈図書のコンピュータ管理のため  
の蔵書整理とデータ作成を行なった。

### 4、研究交流・会議

(1)平成三年六月十七日、第六回地域教化センター連絡  
会議を開催した。今回は、情報の活用とその問題点

について月刊「女性情報」の宮寺有美子氏より「著作権に関すること」、各センター運営に関する問題点について税理士長敬行氏より「発行物に対する課税問題について」意見を伺い、教化センターの活動と実働に向けての研修と意見交換を行なった。また、各センター間の交流推進について、パソコン通信などについても、話し合われた。

- (2) 曹洞宗教化研修所主催による「各宗教化関係研究機関連絡協議会」（平成四年二月四日）に参加し、テーマ「寺庭婦人問題を考える」のもと各宗の状況を報告し、徒弟養成・寺務補助・檀信徒の相談相手として重要な位置にある寺庭婦人の宗団・寺院における位置付けの問題、生活保障の問題、研修などの問題について意見交換をした。あわせて、各宗団における教化活動の問題点と研究所、教化研究の在り方、将来の展望などについて話し合われた。また各研究所発行の関係資料を交換して研究交流を深めた。
- (3) 仏教大学四条センター主催の都市の宗教にスポットをあてた連続研究会「こころの遊牧民たち91―都市

宗教のカルチャー・デザイン」に参加した。今回連続研究会のうち、作曲家東祥高氏「音楽浄土のショーケース」、インテラーカルチャー研究所主宰松沢正博氏「祝祭時代の精神イベント」、サントリー不易流行研究所研究員佐藤友美子氏「都市の装置としての現代寺院」の講演をうかがった。

- (4) 顧問会議にて、今年度二回現宗研顧問会議研究懇談会を開催し、二回目は現宗研囑託・研究員とも研究懇談をした。

○平成三年四月十七日、「イスラム教について」

近江幸正現宗研顧問  
○六月十三日、「同和問題についての本宗の歩み」

- 中濃教篤現宗研顧問  
(5) 顧問会議・囑託会議・研究員会議を開き、研究所並びに研究の在り方などについて討議をし、内容の充実に努めた。

- (6) 教区・管区主催の各種研究会議・研究会などに出席した。